

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100918		
法人名	株式会社 佐々木ケアサービス		
事業所名	グループホーム佐々木		
所在地	青森県つがる市稲垣町豊川初瀬山9番地1		
自己評価作成日	平成26年7月25日	評価結果市町村受理日	平成26年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>民家改修型のグループホームなので、家庭的な雰囲気の中で生活を送ることができます。また、入居者の個性を重視し、生活の場であることを忘れずに介護することで、入居者一人ひとりが安心して生活することができるように心がけています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成26年9月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者は、自分の家族を介護した経験を活かし、グループホームを自分の住んでいる地域に実現したいという思いから、築30年経過した自分の家屋を改修し、グループホーム開設に至った。建物の外観は勿論のこと、内装についても自分の家そのままを再現したような工法となっており、落ち着くことができる。また、職員への資格手当の支給や退職金制度への加入等の福利厚生をできる限り充実させ、専門性の高い職員が長く勤務してくれることにより、利用者の幸せにつながることを注いでいる他、職員同士のコミュニケーションもよくとれていることから、利用者は思い思いに、家庭的な雰囲気の中で、落ち着いて生活をしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、家族、職員とのふれあいの中で、安心して暮らしていけるように、理念を具体化し、実践に取り組んでいる。	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割について理解し、利用者が人と人とのふれあいの中で安心して暮らすことができるように支援していくという、ホーム独自の理念を掲げている。また、理念をホーム内に掲示して共有化を図り、職員は日々の業務の中で常に確認をしながら、ケアサービスの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、周辺住民や顔見知りの関係から気軽に挨拶や会話を取り交わしている。また、隣接した住宅型有料老人ホームへ行き来することにより、入居者や職員と交流を図っている。	近隣住民が野菜を持って来てくれたり、認知症に関する相談等に訪れている他、中学生の職場体験の受け入れや外部からのボランティア等との交流を図っている。また、隣接する住宅型有料老人ホームに出かける等して、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの認知症に関する相談等を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の日々の生活や行事等の報告の他、委員の皆様から意見や助言をいただき、ホーム運営や日々のケアの向上につなげている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、会議においては、ホーム内の運営状況や利用者の生活状況等を報告しながら、情報交換をしている。その中から意見等として出された事項については、日々の運営に活かすように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	つがる市の担当職員に運営推進会議に出席してもらい、現場の課題について検討し、助言をいただいている。また、相談連絡等は随時行っている。	運営推進会議には市の担当職員もしくは地域包括支援センター職員が出席しており、アドバイスをいただいている。また、いつでも相談事項等があれば、市の担当課に対応していただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全を守る範囲で、身体拘束をしないケアを実践している。また、年に1回、事業所内で研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束については、原則的には行わないという姿勢で利用者に接しており、マニュアルを作成し、年に1回、内部研修を行いながら、身体拘束の内容や弊害について理解を深めている。また、運営推進会議のメンバーの他、近隣住民から認知症に関する相談等があった際にも、利用者の無断外出時に協力を得られるよう働きかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止を認識しており、日常のケアの中で注意を払いながら、実施している。また、年に1回、事業所内で研修を行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回、事業所内で研修を行い、職員等が必要な知識を学んでいる。また、必要に応じて、関係機関と連絡調整等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書をわかりやすく説明し、同意を得ている。また、質問には納得のいくまで答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や行動から、その思いを察する努力をしている。また、家族には面会時等に気軽に相談や質問、意見をいただいている。ミーティングで話し合い、ケアの向上に努めている。	利用者とは日々の関わりの中で信頼関係を築けるように努めており、上手く意見を出せない利用者については、普段から表情や行動を注意深く観察するようにしている。また、家族等が面会に来た際にも、話しやすい環境づくり等を心がけ、出された意見等を今後のより良いホーム運営のために反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者等は職員から意見や提案を聞く機会を設け、意見等があった場合は反映させるように努力している。	カンファレンスやミーティング等、職員から意見を聞く機会を設けている。また、代表者や管理者は職員の意見をよく聞き、相談役となっており、勤務体制も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は研修参加や資格取得に向けて、積極的に自己啓発を推奨している。また、資格手当等、有資格者を評価する仕組みを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行い、職員一人ひとりの質の向上に努めている。また、外部研修にも参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある特別養護老人ホームやグループホームの運営推進会議の出席、各種研修会への参加を通じ、ネットワークづくりに取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談の際は、本人の思いや不安や困っている事を受け止め、利用についての案内をしている。また、いつでも気軽に見学できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や経緯、現在の状況、要望等について聞いた上で、ホーム側としてどのような対応ができるかを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を求めているかを確認し、把握した上で、どのように対応していくかを考えていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意分野や生活の知恵等を教えていただくこともある。また、お互い相談をしたり、されたりして、信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子等を家族に報告し、共に入居者を支えていくように努めている。また、家族からの情報は職員間で共有し、入居者の支援に役立てている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの人が面会に訪れた時には、再来訪しやすいような雰囲気づくりに努め、地域行事への参加等を通して、交流が途切れないように努めている。	利用者がこれまで関わってきた人や場所を把握しており、できる限り、利用者の意向に沿うようにしている。また、電話の取り次ぎや手紙を出す等のサポートを積極的に行い、利用者が関わってきた関係者との交流が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士の席の位置等に気を遣い、配慮をしている。職員が間に入り、入居者同士の関わりを助けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院等により、退去した入居者でも、連絡や相談があった際には、対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から、入居者の要望を聞き、家族からの情報も取り入れ、本人の希望等の把握に努めている。	職員は、毎日の生活の中において、利用者とのコミュニケーションを通じて、思いや希望、意向を話題に取り入れ、把握するようにしている。また、気づきノートや申し送り、ミーティング等により、細かく把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、親戚の情報を細かく聞きとり、生活歴や生活習慣を把握し、個性や価値観を大事に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活習慣に配慮し、残存能力を見極め、見守るケア、できないところを手助けするケア等、個別の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らせるように、日頃の生活の中での思いや要望を聞き取り、職員で話し合いの場を持ち、入居者本位の介護計画の作成ができるように努めている。	介護計画は、利用者の意見、家族や関係者の情報を基に、その人らしい個別の計画となるように作成している。また、実施期間を明示し、期間終了後には見直しを行っている他、実施期間に関係なく、利用者の状況変化や家族の希望によって、随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過や一日の水分摂取量・食事量・排泄状態・バイタルを見やすく記録しており、職員は入居者一人ひとりの体調や生活習慣を把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や買い物支援、衣類の修繕等を行っている。また、外出、外泊時に家族送迎が困難な場合は事業所で送迎している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力を得ながら、個々の状態を把握していただき、見守り等、入居者が安全に生活できるように支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を確認し、受診できるように支援している。また、受診については本人、家族の要望に沿えるように努めている。	入居時に、利用者や家族からこれまでの受療状況を確認し、把握している。また、利用者が希望する医療機関を受診できるように支援している他、受診結果については利用者や家族と共有化が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活において、個々の状態を把握し、観察や気づきの中で、医療機関の看護師と情報を共有しながら、適切な医療支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはできる限りの情報を医療機関に提供し、入居者が適切な医療を受け、早期に退院できるように努めている。また、入院後は定期的に医療機関や家族との連絡を取り、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化した場合の対応等を、入居者及び家族へ説明している。また、寝たきり等の重介護入居者に対しては、医療関係者等に指導を受けながら介護をしている。	入居時に、利用者の重度化や終末期の対応はしない旨、ホームの方針を明確にしている。また、医療機関や家族と常に話し合いの機会を持ち、利用者や家族に不利益がないよう、意思疎通を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡先、対応がマニュアル化されており、職員が把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しており、職員はマニュアルを把握している。また、地域の方には非常時に協力いただけるよう、お願いをしている。	避難訓練は、夜間想定も含めて年2回実施している。災害時の対応については、理解と協力が得られるよう、計画書を作成し、運営推進会議のメンバーにも説明をしている他、消防分署にも協力を要請している。また、災害時に備え、食料や飲料水、防寒用具等を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立った対応や、プライバシーを損ねないような言葉かけ、ケアに努めている。また、個人情報の取り扱いや秘密保持には十分に注意している。	職員は利用者の言動を尊重しながら接しており、利用者は思いのままに、自由に行動している。また、トイレや入浴介助についても、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮したケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話から入居者の思いを引き出したり、納得してもらうような説明や、自分で意思決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの好きな事、今までしていた事等、何をすることがその人にとって充実した時間を過ごせるのかを職員が把握し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでいただいている。整髪や化粧等、本人の希望に沿うように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は旬な食材や入居者の好みを取り入れられたり、また、塩分を抑えるために和風だしの利いたおいしい食事を提供している。食事の準備や後片付けを職員と一緒にやっている。	食事の献立や材料については、専門業者に依頼している他、職員は日頃の関わりから、利用者の嗜好を把握している。また、職員は利用者と一緒にテーブルに座り、会話を楽しみながら、食べこぼしのサポートもさりげなく行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量や残食のチェックを行い、栄養バランスが取れるよう、献立を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い、口腔衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しており、声がけし、誘導や介助等の支援をしている。	排泄パターンチェック表により記録し、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、事前誘導や声がけにより、排泄の自立を促している他、尿意や便意の確認時、誘導時、失禁時の対応はプライバシーに配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維の多い食材を使ったり、水分摂取量に注意している。排泄は全て記録し、必要に応じて、医師から処方された下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴用車椅子の使用等、入居者の身体状態や健康状態に合わせた支援を行っている。	入浴は基本的に週2回となっており、入浴時や普段のケアの場面の中から、利用者の好みや習慣を把握するようにしている。また、入浴を拒否する場合には無理に勧めず、時間をずらしたり、家族の協力を仰ぐ等、工夫をしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の入居者には安眠できるように工夫している。また、昼食後は昼寝の時間を設け、居間のソファやじゅうたん、居室で休めるよう、個人に合わせた支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、常に入居者の服薬については説明書で確認している。また、服用時には一人ひとりの状況に合わせて、確実に服用できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでのお手伝いや散歩、音楽鑑賞、折り紙、塗り絵等のレクリエーション等、役割や楽しみを一人ひとりに合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の状態に合わせて、買い物や季節の行事等、外出する機会を増やすように取り組んでいる。	利用者の楽しみや気分転換につながるよう、年間の行事計画を作成して実施している他、ショッピングや道の駅等に少人数で出かけている。また、利用者の身体状況や精神状況にも配慮し、外出をためらう利用者には無理に勧めず、その日の状態や利用者の状況に応じて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する入居者に合わせ、家族と相談しながら、買い物ケアを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった場合、電話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れるように装飾を施したり、入居者と作成した貼り絵等を壁に飾り、居心地が良くなるように工夫している。	築30年という一般住宅を改修したホームであり、リビングにはテレビ、ソファ、小テーブルが置かれている他、壁には時計、暦、スナップ写真が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。また、利用者同士の声、職員の声、テレビの音も騒がしくない他、遮光、温度、湿度も適切に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファが置かれ、食堂には入居者と職員が食事をできるよう、テーブルと椅子が置かれており、入居者は好きな所で団らんしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族と話し合っ、慣れ親しんだ物を置き、寛げる部屋づくりをしている。	居室には、時計や小物等の愛用の品々が置かれると共に、家族の写真等が飾られ、思い思いの居室となっている。また、持ち込みの少ない利用者については、職員が協力をして、心地良く過ごせる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の廊下、トイレ、浴室等、主要な場所には手すりを設置し、一人ひとりの残存能力を活かした移動や立ち上がり等ができるようにしている。		